回　想

第22代校長　向　田　　茂

兵庫県立芦屋高等学校が創立７０周年を迎えられましたことを心よりお祝いを申し上げます。私が「芦高」にお世話になりましたのは、平成１７年度からの３年間でしたが、それは丁度、普通科単位制に改編された初年度から完成年度にかけての期間でありました。「芦高」の重厚な歴史と伝統を背負いながら、その復権をめざす改編への取り組みは、大きな期待と注目を集めていましたので、大変な重責と緊張感を持って赴任したことを今でも思い出します。私は最初の職員会議で、先生方に対して生徒一人一人の個性、能力を最大限に引き出そうとする教師の姿勢こそが大切であるというようなことを訴えたように思います。また、入学してきた生徒たちには、この普通科単位制は「芦高」の教育綱領である「自治・自由・創造」の精神に沿った教育制度であり、本校の良き伝統と校風を継承しながら、新たな創造に向けて邁進して欲しいと期待と激励の言葉を贈りました。

以降、教育課程や校内諸規程の見直し、二学期制の導入や記念祭、修学旅行等の学校行事の見直しなどに取り組み、最終目標としての進学重視型の普通科単位制をめざしました。意欲ある中学生を集めるため、「芦高に新風が吹く」というキャッチフレーズを記した学校案内を中学校に配布してまわったり、地区別の説明会を開催したりして、多くの先生方の労を厭わぬ献身的な協力を得ながら、懸命に広報活動に取り組みました。おかげで、毎年志願者の数を増やし、３年目には６８中学校からの入学生を集めるようになりました。また、施設・設備面では県教育委員会からさまざまなご配慮を賜りましたし、当時の事務室の皆さんにも多大のご協力をいただきました。

また、ＰＴＡの皆さんともたくさんの良い思い出を作ることができました。土曜日勉強会をはじめ、いろいろな場面でご支援を賜ったり、諸行事に一緒に参加させていただいたりしましたが、特に、県のＰＴＣＡ研究大会において、チームワークを有効に発揮しながらすばらしい実践発表をやり遂げたことは忘れることができない思い出となっています。

さらにまた、「芦高」３年間で最もお世話になったといえば、同窓会「あしかび会」の皆様のことを抜きすることはできません。何人もの卒業生の方とお出会いしましたが、「芦高」の卒業生は、どこの卒業生よりも母校への思いが熱いのではないかというのが私の受けた率直な印象です。何気ない話の中でもそれはじわじわと伝わり、私自身にとって、学校を運営していく上での大きな心の支えと励みになりました。「芦高」の財産は、まさにこうして輩出した人材にこそあるのではないかという強い思いを今でも持っています。

このように当時のことを思い起こすと、私の在職中の３年間は本当にいろいろな方々に支えられてばかりであったという気がします。そうした皆様には、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。そして、今後も「芦高」が普通科単位制への改編を機に、ＰＴＡや同窓会、また、地域の皆様に支えられながら、さらに有為な人材を世に送りつづけていただきたいと願ってやみません。